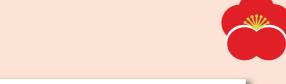


ポラリス

No. **27** 2013. 1

札幌社会保険総合病院 院外広報誌















- ◆医療の現場から① ② ③
- ◆ピンクリボン運動
- ◆第18回調理技術勉強会
- **◆**クリスマスの夕べ
- ◆こんにちは 医療連携・相談室です
- ◆医療安全推進週間



新年のご挨拶

札幌社会保険総合病院 院長 佐々木 文 章



新年あけましておめでとうございます。

衆議院議員選挙も終わり、新たな医療体制のもとで医療が行われていくことになります。当院では、どのように政治状況が変化しようとも、以前からの方針通り地域の住民の方々にお役にたつ医療を行って行きます。

当院は、地域医療支援病院に認定されており、医療提供、 医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医、 かかりつけ歯科医等を支援することにより、地域の方々の 医療を行っている急性期病院であります。

現在、当院が行っている診療のうち、いくつかを紹介します。少子化の進む中、この厚別地区において、安心して、妊娠出産を迎えられるよう、産科外来を充実すべく女性医師により診療をおこなっています。狭心症、心筋梗塞に対しては循環器科で心カテーテルによる治療を年600例以上行っています。眼科では、白内障の治療はもちろん、厚別地区で唯一の硝子体手術を行っている病院です。がんの予防のために、乳がん、子宮がん、大腸がん検診を併設して

いる健診センターで行っています。札幌市発行のクーポン 券使用も可です。どうぞ利用下さい。

私ども、札幌社会保険総合病院の職員は、「病気やけがを抱える患者の皆様のために、少しでも役に立ちたい」という思いで医療を行っています。今後も、医療技術を磨き、やさしい接遇をもって全職員で、地域の皆様の健康と福祉の増進のために努力していきたいと考えております。2014年4月からは、地域医療機能推進機構傘下の病院になることが決まっております。今後さらにく急性期病院として、地域に貢献する>という理念のもと、"いきいき健康教室"などの活動を通し、地域住民の方々および地域の先生方との結びつきを更に密接にし、この厚別地区の医療の質の向上に貢献すべく、邁進してまいりたいと考えております。

2013年が、皆様にとって良い年になりますことを心からお祈りし、年頭の挨拶に代えさせていただきます。

今年も、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上 げます。

医療の 現場から **1**

フィッツ・ヒュー・カーティス症候群

総合診療科 部長 渡邉 智 之



今年の4月から総合診療科で診療いたしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

当科では患者さんを総合的に診療することを目指しております。更に高度な医療が必要な場合には当院のそれぞれの専門科を紹介させていただき治療をお願いいたしております。

外来で総合的に診療しておりますと、色々な症状の患者さんを診療し珍しい疾患を経験する機会があります。

たとえば、皆様はフィッツ・ヒュー・カーティス症候群 をご存知でしょうか。

この疾患は若い女性に多く、主症状はかなり強い腹痛が 腹部の真ん中から右上腹部にかけて起こります。他の症状 として微熱があるくらいで、血液検査では炎症所見に乏し く、肝障害も軽症でありますので診断に苦渋することが 度々あります。症状等より胃腸炎などの消化器疾患と間違 われて、胃腸薬等が処方されることがよくあるそうです。 実は、この疾患は、婦人科疾患であり、原因体はクラミジアであり骨盤内炎症性疾患の上行性感染による肝周囲炎が主な病態であります。

腹腔鏡で観察しますと、肝臓の表面の被膜だけに限局性の炎症が起こるため、そこにバイオリンの弦のような繊維性の白い癒着が認められるそうです。

最近、診断には造影CT所見が非常に役に立っております。造影早期相にて肝臓前面の表面に淡い造影増強効果が高頻度で確認されるようです。

治療としては、テトラサイクリン系、マクロライド系、 ニューキノロン系の抗生物質が使用され2週間ほど投与することで治癒いたします。

このように、総合診療科で診療をしていますと、時々珍 しい疾患に出くわすことがあり、これも総合診療の醍醐味 なのかもしれません。



鼠径ヘルニア

外科医長 腰塚 靖之



鼠径ヘルニアは比較的頻度の高い疾患です。皆さんのなかでも、鼠径ヘルニアで手術をしたことがある人が、結構いるのではないかと思います。

子供から大人まで、すべての年齢で発症しますが、発症の原因は子供と大人では全く違います。子供のヘルニアは、"腹膜症状突起の遺残"、つまり胎生期(お母さんのおなかの中にいるあいだ)に伸びた腹膜がおなかに戻らずに鼠径部に残っているために生じる、いわば生まれつきが原因でなる病気と言われています。大人のヘルニアの原因は、おなかの底の筋肉の隙間から"ニュルッ"と出てくるイメージです。

したがって治療法も全く違います。子供の場合は残っている腹膜を見つけて根元で縛るだけでOKです。大人の場合は、何らかの形で出てくる隙間を補強しないといけません。1990年代に"メッシュ"素材が登場するまでは、自分の筋肉や腱膜などで隙間を合わせて補強し修復するより方法がなく、そのため術後に再発やつっぱり感などが生じやすいとされていました。メッシュ素材が登場してからは、特別な理由がない限りはメッシュを用いて、組織に緊張がかからない方法で修復する方法が通常となりました。現在さまざまなタイプのメッシュがあります。自分が医者に

なってから使用したメッシュの種類は4種類にのぼります。 鼠径ヘルニアはその成因から考えてわかるとおり、手術 以外に治療法はありません。理論的には放っておいたり薬 を飲んだりしても、絶対によくなりません。放っておくと だんだん出てくる頻度が増えたり、膨瘤の大きさが大きく なったり、つっぱる感じや違和感などの症状が増悪します。 出てくる内容はたいていが可動性のある小腸ですが(脱腸 と呼ばれる所以です)、大腸や大網、卵巣、左側の場合は 虫垂のこともあります。内容が出っ放しになって、いわゆ る嵌頓状態になると、腸内容が通過せずに腸閉塞になった り、腸の血流が悪くなり腸が腐って穴が開いたりして、最 悪の場合は命にかかわることもあります。逆に、医療従事 者側から見たときには、腸閉塞の原因として鼠径ヘルニア 嵌頓の場合がありますので、原因不明の腸閉塞患者を見た 場合には、かならず鼠径部を確認して、鼠径ヘルニア嵌頓 の有無をチェックすることが大切です。

鼠径ヘルニアは放っておいてもよくならないですし、命に関わる病態にもなりうる疾患ですので、鼠径部の膨瘤があり鼠径ヘルニアが疑わしいときにはすぐに病院を受診しましょう。

医療の 現場から 3

突発性難聴 早めの受診を



突発性難聴とは、文字通り突然発症する、原因不明の一側性感音難聴です。突然難聴になる疾患はほかにもいくつかありますが、それらを除外して原因が明らかでないものを突発性難聴として治療しています。

特徴は、○月△日に聞こえていないことに気付いた、朝目が覚めて気づいた、というように発症の日にちを特定できるケースが多いことです。耳鳴やめまいを伴う場合も多く見られます。難聴が良くなったり悪くなったりといった変動は見られません。原因として、内耳循環障害やウイルス感染など複数の病態が絡んでいると考えられている病気です。患者さんが受診されたら、問診、鼓膜の診察、聴力検査を行い、めまいを伴う場合には眼振検査も行います。また、突発性難聴のうちの数%に聴神経腫瘍が隠れていることがあり、MRIで聴神経腫瘍の有無を確認しています。

治療の主体はステロイドで、およそ1~2週間かけて漸減投与します。ほかに、内耳循環の改善目的として血管拡張薬やビタミンB12製剤の内服、低分子デキストラン、プ

耳鼻科 寺 田 木の実

ロスタグランディンE1製剤の点滴を併用します。

治療後の聴力予後については、治癒するものが1/3、回復はするが難聴の残るものが1/3程度です。また、予後推定因子として①初診時の聴力レベル、②年齢、③めまいの有無、④治療開始までの期間などがあり、高度難聴、高齢、めまいを伴う、発症から来院までの日数が長い、といった場合に、聴力予後はより不良となる傾向があります。

④の発症から治療を開始するまでの期間は、患者さん自身の意思にも因るところです。突発性難聴では、一般に発症後1ヵ月の間に内耳障害が可逆性のものから不可逆なものへ移行すると考えられています。つまり、発症から約1ヵ月で聴力は固定してしまう(それ以上改善しなくなる)ということです。治療開始日が発症から1週間を過ぎると少しずつ聴力予後は悪くなり、2週間を過ぎるとさらに低下し、改善例はどんどん減少していきます。

この病気は発症早期の治療が大切です。おかしいな、と 思ったら、躊躇せず早めに受診されることをお勧めいたし ます。

乳がん死ゼロをめざす 「ピンクリボン運動」は盛況に終了しました。 ご協力ありがとうございました。

健診センター科長 小 泉 由貴美

去る10月21日(日曜)は、ピンクリボン運動月間で、 当院では乳がんと子宮がん検診の健診を48名が受けられました。

健診センターでは、健診終了後に更衣室をはじめ飾りつけや、パンフレットの準備をして、健診者の皆様をお迎えいたしました。健診者の皆様からのアンケート結果から、『女性のみの検診でリラックスできた。また受けたい』『子宮がん検診は女性医師で良かった』等の好評をいただきました。

午後からは、シェラトンホテル札幌で市民公開フォーラムを開催し、82名の参加を得て、70%の皆様がアンケートに答えて下さいました。

乳がん治療の専門医師からの講演とパネルディスカッションは、約70%の方が興味を持たれた、との回答を得ています。また、フルートと歌曲の演奏も好評でした。自由記載のなかでは、『時間が足りない気がした』『健診の大切さを伝えていこうと思った』などの声もありました。

次年度は、今回の反省を活かしより多くの皆様にこの機会に、乳がんだけではなく健診の大切さを知っていただき、健診を受けていただけるように、取り組んでいきたいと思います。











第18回調理技術勉強会 2チームが優秀賞獲得!!

テーマ:「食欲不振の時でも、「食べてみようかな…」

年2回開催されている、調理技術勉強会が11月12日に開催されました。今回で18回目の開催となり、テーマは「食欲不振の時でも、食べてみようかな…」でした。調理師と栄養士がペアになり5チームの出場でした。

最優秀賞の献立は、病院の食事として提供されます。職員の方々にも50名程度参加して頂き、ありがとうございました。

萬歳調理師 湯谷栄養士ペア

今回のテーマである "バラエティ食" は品数が 6 品といつもより多かったので考えるのも大変でした。

化学療法で食欲がない人 のための食事なので、まず いろどりを良くし、蓋を開 けた時にあっと驚くような何



かをしたいと思いました。その中で考え付いたのが「さつまいものパルフェ」です。普通のプリンだけでは変化がないので、旬のさつま芋を使用し、病院食では珍しいパフェにしました。

当日はさつまいもプリンが固まらないハプニングもありましたが、最後には納得のいく調理ができてよかったです。

これからも患者様に美味しいと思っていただける料理を 作っていきます!このような機会を設けていただきありが とうございました! 萬歳 美穂

今回のテーマ「食欲不振の時でも、食べてみようかな…」をもとに、食欲がない患者様にでも一口だけでも食べて欲しいという思いから、萬歳調理師と協力して献立を作成しました。

その中でも、家庭で食べているようにホッとできて、明るい気持ちになってもらえること!をまず第一に考えました。ですが、バラエティ食ということで、栄養価や食材の縛りがあまりない分、食材・色・味など全体的なバランスを考えるのは大変でした。献立完成後は、何度も試作を行い、ゼラチンの少しの量の違いでプリンが固まらなかったり…鮭をフライパンで炒めたらボロボロになってしまったり…実際に調理をしてみないと見えない部分もあると勉強になることがたくさんありました。

当日はどのペアも様々な工夫がされていたので1位に選ばれた時には驚きましたが、萬歳調理師と試行錯誤した献立だったので、評価していただけたことはとても嬉しかったです!ありがとうございました! 湯谷 亜由美

「少しだけでも食べて欲しいから… あったか思いやりごはん☆」



- *あっさり梅チーズ春巻き
- *さっぱり鮭のゆず炒め
- *あったかくずし豆腐のあん煮
- *色とりどりさっぱり野菜マリネ
- *岩のりスープ
- *さつま芋プリンのパルフェ

三熊調理師 明嵐栄養士ペア

調理技術勉強会に参加するのは僕自身3回目で、過去2回はどのようなメニューが良いのかなど、あまりよくわからず手探りの状態でした。



そうした中で今回は、前

回までの経験を活かしてメニューを考えました。

当日は、調理作業をしている時に、他のグループの様子を少し覗いてみたりしたのですが、手の込んだ料理や見栄えの良い料理ばかりで「自分たちの考えた料理で大丈夫か?」と不安にもなりました。結果として自分たちのメニューを選んでいただけたのは嬉しかったです。

次回もテーマに合ったメニュー作りを頑張りたいと思い ます。

三熊 講平

「食欲不振の時でも、食べてみようかな…」で優秀賞をいただくことができ、とても嬉しく思っています。ありがとうございました。

普段から化学療法や体調不良などで食欲のない患者さんから、「もう少し味付けを濃くしてほしい」「するっと喉越しのよい料理が食べたい」などの声を聞いていました。そのような多くの意見を取り入れたいと、三熊調理師と相談し勉強会に出品しました。

今回の献立を今後行事食として提供するために、味や見た目や量などに配慮して食事制限のある患者さんにも美味しく食べていただけるような献立作りを調理師のみなさんと一緒に考え取り組んでいきたいと思います。

明嵐泉

「今日の食事はなんだろなぁ~ ♪わくわくランチ♪」



- *鶏肉のげんきのこソース
- * タラのあっさり中華風炒め
- *焼き豆腐のさっぱりトマトソースがけ
- *ぷりぷりエビの豆乳マヨサラダ
- *焼きねぎとろ~りすまし汁
- *つるんとずんだ白玉カルピス

クリスマスの夕ベ_{、*}************

栄養部 田 中 友 梨

吉田副委員長の挨拶から始まり、とわの森三愛高校のハンドベル部の皆さんの演奏、札幌市厚別中学吹奏楽部の皆さんの演奏、サンタクロースからのプレゼントで終わりました。

天気も悪く、とても寒い日だったのであまり人が集まらないのでは…と心配されていましたが、最終的にはイスを追加して並べても足りないくらい人が集まっていました。ハンドベルや吹奏楽の演奏中は手拍子をしたり、一緒に歌をうたったりととても楽しそうに演奏を聴いている人ばかりでした。

私は、クリスマスの夕べの当日にクリスマスツリーの着ぐるみをきることを聞かされ、あまり乗り気ではありませんでしたが、次の日に担当している病棟の患者さんなどに「がんばってるね!」「似合ってるよ!」などと声をかけてもらえました。

クリスマスツリーの着ぐるみを着る機会はもうないと思うので、いい経験 ができたかなと思います。

そして、来年は誰がクリスマスツリーの着ぐるみきるのか楽しみです。











こんにちは 医療連携・相談室です

日頃、連携をさせて頂いている 先生方を紹介します。

●病院の特徴について教えてください

開院して28年目に成ります。もうそろそろか、まだまだなのか、悩ましい。当初は消化器専門でしたが勤務医時代に蓄えた貯金もすっかり無くなり、今やゼネラルフィジシャンに成ってしまいました。開業後に得た知識も沢山ありますが、いささかの寂しさを覚えます。何の特徴も無いのですが、日曜日と夜間診療をしているのが特徴と言えるかもしれません。知りたい、見たい、聞きたい、などの欲求が無くなれば、後身に道を譲るべきかもしれませんが、まだまだ意気軒昂です。



▲院長 坂井洋一先生とスタッフの皆様



医療法人社団 坂井胃腸科内科医院

〒004-0032 札幌市厚別区上野幌2条5丁目1-13 電話011-893-2323 FAX011-893-2329

今回は、昭和60年10月に開院されました坂井胃腸科内科医院の院長 坂井洋一先生にお話を伺いました。医院は上野幌の住宅街にあり、地域に根ざした医療機関として診療されておられます。患者様は厚別区のみならず、北広島市から通院してこられる方も多くいらっしゃいます。スタッフの方は看護師2名、医療事務2名となっています。

●医療連携に対するお考えをお聞かせください

社会保険病院にはいつもお世話になっています。面倒なケースについて御配慮頂き感謝申しあげます。安心して後送出来る病院が存在するのは、誠に心強いものです。これからもよろしくお願いします。



▲上野幌の住宅街に位置しております



▲広い窓から明るい光が入る待合室



医療安全推進週間



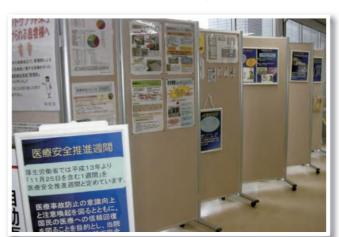




医療安全部 佐藤聖美

平成13年に開始された「患者の安全を守るための共同行動(PSA)」の一環として、医療機関や医療関係団体等における取組みの推進を図り、また、これらの取組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的として、11月25日を含む1週間を「医療安全推進週間」が設けられています。

今年度、当院では11月21日~11月30日までの10日間を安全推進週間とし、医療安全の自己点検を皮切りに、1階エントランスホールにスローガンの横断幕設置、今年度発行の医療安全ニュースや医療安全に関するパネルを展示し、また1日2回院内放送で安全の呼びかけを行いました。



期間中の最大のイベントは11月29日(木)に行われた医療安全推進研修会です。

日本コヴィディエン株式会社クリニカルサポート課日本 静脈学会認定弾性ストッキングコンダクターである、看護 師の松本鈴香様を講師に迎え、静脈血栓塞栓症予防につい て講演をしていただきました。

今年度も残すとこ3か月となりました。当部会では、最 後の追い込みと致しまして、今年度の医療安全目標「指差



第66回

札幌社会保険総合病院開院記念行事第14回市民公開フォーラム

日時:平成25年2月1日(金)午後5時15分~

場所:札幌社会保険総合病院

エントランスホール

入場:無料

第1部は素敵な歌とピアノ演奏、第2部は札幌社会 保険総合病院眼科部長の廣瀬先生による「白内障に ついて」の講演です。お気軽にお立ち寄りください。 お待ちしております。



新年あけましておめでとうござい ます。今年はいつになく雪の多いお 正月を迎えました。昨年はオリンピッ ク・金環日食等がありました。

今年度は当院において新機構に移行するにあたり あと1年余りとなりましたが、「札幌社会保険総合病 院」としての名に恥じないように職員全員で力と知 恵を合わせ移行に取り組んでいきたいと思います。

(嶋宮記)

編集委員 相川・長瀬・篠原・嶋宮・中野渡・市川 奥田・楠・小竹・早川・村上



発行責任者:佐々木 文章

発行: 〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号 札幌社会保険総合病院